

山形県庄内地域における 8 月盆出し露地小ギクの品種選定及び開花調節技術の検討

吉田祐一・菅原 敬¹⁾・高梨良子²⁾・渡部由理³⁾・高橋佳孝⁴⁾

(山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室・¹⁾山形県村山総合支庁産業経済部西村山農業技術普及課・²⁾山形県庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課・³⁾山形県庄内総合支庁産業経済部産業経済企画課・⁴⁾山形県庄内総合支庁産業経済部酒田農業技術普及課)

Varietal Characteristics and Flowering Regulation for Early August Harvest Small-flowered

Chrysanthemum (*Chrysanthemum morifolium* Ramat.) in Shonai, Yamagata.

Yuichi YOSHIDA, Kei SUGAWARA¹⁾, Ryoko TAKANASHI²⁾, Yuri WATANABE³⁾ and Yoshitaka TAKAHASHI⁴⁾

(Yamagata Shonai Agricultural Technique Improvement Research Office・¹⁾Yamagata West Murayama Agricultural Technique Popularization Division・²⁾Yamagata Shonai Agricultural Technique Popularization Division・³⁾Yamagata Shonai Industrial and Economic Planning Division・⁴⁾Yamagata Sakata Agricultural Technique Popularization Division)

1 はじめに

小ギクは仏花として 8 月のお盆に毎年大きな需要がある品目である。露地で栽培できるため取り組みやすく、山形県の庄内地域でも導入が進んでいる。しかし、小ギクは生育期の気象条件により収穫期が左右されやすく、需要期であるお盆を過ぎると単価が下がるという課題がある。また、エテホン処理や電照処理などの開花調節技術は品種によってばらつきが見られるため、品種ごとの調査が必要である。そこで、7～8 月咲きの夏秋ギクに分類される小ギクから、8 月盆出しに適し、かつ優れた品質を持つ品種の探索とエテホン処理、電照処理による開花調節の効果について調査した。

2 試験方法

(1) 品種別の収穫期及び品質(実験 1)

白色の小ギク 11 品種(‘精しなみ’、‘精なぎさ’、‘精なつげみ’、‘精しずえ’、‘高原’、‘朝風’、‘新山’、‘しゅううきぐも’、‘すずかぜ’、‘白舟’、‘シュペーガサス’)と、育成途中の 1 系統(071-2001)を供試した。

2011 年は 4 月 10 日に挿し芽を行い、4 月 28 日に定植、5 月 9 日に摘心を行った。2012 年は 4 月 10 日に挿し芽を行い、5 月 1 日に定植、5 月 8 日に摘心を行った。

施肥は基肥 N: P₂O₅: K₂O=15:17:14(kg/10a)、追肥 N: P₂O₅: K₂O=5:3:4(kg/10a)を施用した。

栽植距離は畝間 160cm、株間 10cm、条間 30cm の 2 条植

え、3 本仕立とした。試験規模は 1 区 12 株、2 反復とした。

(2) エテホン処理が収穫期に及ぼす影響(実験 2)

試験場内において、2012 年に白色品種‘精しなみ’を供試し、エテホンを摘心時及びその 10 日後に 1 株あたり約 5ml 散布した処理区と、無処理区を設け、収穫期を調査した。4 月 10 日に挿し芽を行い、5 月 1 日に定植、5 月 8 日に摘心を行った。施肥は基肥 N: P₂O₅: K₂O=15:17:14(kg/10a)、追肥 N: P₂O₅: K₂O=5:3:4(kg/10a)を施用した。試験規模は 1 区 12 株、2 反復とした。

また、同品種について、2013 年に現地ほ場でエテホン処理区を設け、同様の試験を行った。現地圃①は 5 月 6～9 日に定植、5 月 16～19 日に摘心を行った。現地圃②は 5 月 10 日に定植、5 月 20 日に摘心を行った。現地圃③は 5 月 1～5 日に定植、5 月 8～12 日に摘心を行った。

(3) 電照処理が収穫期に及ぼす影響(実験 3)

2013 年に白色 1 品種(‘精しなみ’)、黄色 2 品種(‘精はぎの’、‘ともき’)、赤色 2 品種(‘舞人’、‘精はなこ’)を供試して行った。電照処理は 60W 白熱電球を 1.2m の高さに 0.23 個/m² 設置し、5 月 11 日の摘心時から 6 月 20 日まで 22 時～翌日 2 時の暗期中断を行い、対照として自然日長下で栽培する無処理区を設けた。試験規模は 1 区 6 株、2 反復とした。

3 試験結果及び考察

(1)品種別の収穫期(実験 1)

収穫期が 7 月 30 日～8 月 10 日の需要期に入り、切花長 75cm 以上、調整重 50g 以上、商品率 80%以上である品種は‘精なつぜみ’であった(表 1)。また、‘精しまなみ’は収穫期がやや早い、草姿、花色が特に優れた。なお、‘精なぎさ’は収穫期と切り花品質共に優れていたが、サビダニと推測される黄色斑点が発生する場合があったため、不適と考えられた。‘高原’、‘新山’は調整重が少なく、下位側枝が多いため作業性に劣り、不適と考えられた。‘朝風’、‘精しずえ’は切花長が短く、調整重が少ないため、不適と考えられた。その他の品種は収穫期が需要期の前あるいは後だったため、不適と考えられた。白さび病の発生が見られなかった品種は、‘精しずえ’、‘しゅううきぐも’、‘すずかぜ’、‘白舟’、‘シューペガサス’を除く 6 品種、1 系統であった。

(2) エテホン処理が収穫期に及ぼす影響(実験 2)

場内試験においては、無処理区の収穫盛期は 7 月 26 日であったが、処理区では 8 月 7 日と 12 日遅くなり、需要期に収穫できた(表 2)。現地試験は一部の圃場で需要期よりも早い

収穫となった。これは圃場により定植日と摘心日が異なったため、一部の圃場ではエテホン処理時期が遅れたことが要因と考えられた(表 3)。

(3)電照処理が収穫期に及ぼす影響(実験 3)

電照処理を 6 月 20 日まで行くと収穫盛期が最大で 16 日遅れ、5 品種中 4 品種が需要期に収穫できた(表 4)。消灯後～収穫までの週数は 6.5～7 週であった。‘精はなこ’では効果が確認されなかったが、これは‘精はなこ’の幼若性の消失時期と電照終了時期が一致したためと推測された。

4 ま と め

8 月盆出し作型の露地栽培において、需要期に収穫でき、かつ切花品質に優れた小ギク品種は‘精なつぜみ’であった。‘精しまなみ’は収穫期がやや早いものの、エテホン処理と組み合わせることで需要期に収穫できると考えられた。電照処理により、多くの品種で需要期に収穫できたが、品種によって効果が見られない場合もあることから、品種特性と電照の終了時期を考慮して使用する必要があると考えられた。

表 1 品種別の収穫期及び品質

白色品種	試験年	収穫期 (月/日)	切花長 (cm)	調整重 (g)	商品率 (%)	備考
精しまなみ	2012	7/23～7/29	93	66	89	草姿、花色が特に優れる
精なぎさ	2012	8/2～8/8	102	80	100	黄色斑点が発生する場合がある
精なつぜみ	2012	7/24～8/1	79	53	97	
精しずえ	2012	7/28～8/1	70	47	95	
高原	2012	7/24～8/1	80	47	83	下位側枝多い
朝風	2012	7/23～7/31	69	36	50	
新山	2012	7/23～7/30	80	39	69	下位側枝多い
しゅううきぐも	2012	8/8～8/16	103	62	100	
すずかぜ	2012	8/11～8/16	115	86	100	
071-2001	2011	7/25前後	70	67	-	
白舟	2011	8/17前後	109	75	-	下位側枝多い
シューペガサス	2011	8/19前後	98	91	-	

表 2 エテホン処理が‘精しまなみ’の収穫期に及ぼす影響

実施年	場所	エテホン 処理	収穫期 ² (月/日)		
			始期	盛期	終期
2012	産地研究室	有	8/6	8/7	8/9
		無	7/23	7/26	7/29

²収穫期：それぞれ収穫量が 2 割、5 割、8 割に達した日

表 3 現地においてエテホン処理を行った‘精しまなみ’の収穫期

実施年	場所	エテホン 処理	収穫期 ² (月/日)		
			始期	盛期	終期
2013	現地ほ①	有	7/25	8/1	8/7
	現地ほ②	有	7/22	7/25	7/28
	現地ほ③	有	7/30	8/1	8/4

²収穫期：それぞれ収穫量が 2 割、5 割、8 割に達した日

表 4 電照処理が 8 月出し露地小ギクの収穫期に及ぼす影響

品種名	電照	収穫期 ² (月/日)		
		始期	盛期	終期
精しまなみ	有	8/7	8/7	8/8
	無	7/19	7/22	7/23
精はぎの	有	8/8	8/9	8/9
	無	7/25	7/27	7/29
ともき	有	8/9	8/9	8/9
	無	7/25	7/29	7/30
舞人	有	8/9	8/9	8/12
	無	7/30	8/1	8/4
精はなこ	有	8/2	8/4	8/6
	無	8/1	8/4	8/5

²収穫期：それぞれ収穫量が 2 割、5 割、8 割に達した日